

A black and white photograph showing a construction or maintenance site. In the foreground, several workers wearing hard hats and safety vests are visible. One worker is standing near a large pile of earth or debris. Another worker is standing near a small structure or equipment. The background shows trees and a hillside.

施した。診断箇所は、川内土木事務所発注の(旬)拓美庭苑施工・県単街路緑化(植栽)工事(鳥追工区)と薩摩川内市発注の(旬)瀬口造園(旬)施工・ハイタウン平佐住宅公園整備の2力所。

田中会長は「良いところは積極的に取り入れ、悪い点はきちんと指摘し、会員相互の技術向上に役立てていただきたい。現場は学校が近く、通行人も多いので第三者への安全管理が十分なされているかどうかも含め入念に診断・点検してほしい」と指示。

現場代理人から工事概

石走造園(株)	(有)えいしん
緑化建設	(有)川内緑造園
瀬口造園(有)	(有)川内林業
(有)拓美庭苑	中越物産(株)
(有)村岡産業	

ソロプチミスト日本財団の18年度「環境貢献賞」を受賞した野村秀洋氏（株）エコ・クリエート社（鹿児島市）の記念講演が7日、鹿児島市のホ



テルウエルビューかごしまで開かれた。野村氏は、

人が参加。講演では、野村氏が「環境問題の本質

地球温暖化に伴う気候変動で水不足、食糧不足、

「CO2削減も必要だが、地域住民が行政と一体と

環境保全に貢献している
者に与えられるもので、

しは
な
で

消防災

る

く県北部豪雨災害から学んだこと」

消防職員や消防団員が、災害の第一線で感じた疑問や問題点を冊子にまとめた。標題は「水防を考える―県北部豪雨災害現場出動から消防団員・消防団員が学んだこと」(同警防課編集、昨年12月発行)。今年1月、1泊2日の日程で実施した18年度

消防団初任者宿泊研修のテキストにも使用



桑原道男消防局長らが講義した「写真」。

冊子はA4版30ページ。隊員らの災害復旧活動を伝えるとともに、「消防隊員の判断で避難指示は出せないか？」など「懸命な活動の反省の中から生まれた」（編集後記から）疑問・質問（52項目）をQ&A形式でまとめた。副題は「災害を風化させないために！」。貴重な経験と教訓を次代に確実に継承するため増刷し、全隊員に配布することにした。

初任者研修の最終日、新盛和久消防司令が水防工法の講義の後、土俵積み工法の実技研修を行った。

「町の活性化を我々の手で！」。知覧町を愛する有志らで構成する南郡志クラブ（福元明社長）が、同町警

と、麓公園隣接地に郷土民芸や物産品を提供・販売する物産館を建設することを決定。このほど、豊玉姫神社の

による物産館建設を計画。2月28日、現地で祈願祭が行われた。同会は、地元の商店

起工式・祈願祭を行った。

0m²)で外観は周辺の
景観に自然に溶け込む
デザインを採用。設計
は同会メンバーの田代

司氏（有田代建築設計事務所代表）が担当。また、施工費（約1000万円）は各会員の

未来」をテーマに、
の変動に伴う地域住
行政、企業の危機管
どについて話した。

し、「それを未然に防ぐための環境に配慮した投資は、通常の倍の県や市町村の予算が必要となっ

組むためにもぜひ、皆さんに参加してほしい」と呼び掛けた。

ごみ焼却灰の再利用を目的に、県産再資源レンガを製造・販売している野村氏に光が当たった。

講読料のお支
お手軽で便
自動振替
鹿児島建設
099-227-51

ワークシヨップ設置へ

(株)宇都組(宇都要一社長、薩摩川内市)と同社協力会・建栄会(林信貴会長)は6日、薩摩川内市のホテルオートリで工事検査監と契約検査課を講師に出前講座による勉強会を開催し「写真」。社員・会員35人が出席した。この通幸生工事検査監が「公共調達の流れ」今井

いて説明した。進行は久保信治検査係長。講話後は活発な質疑応答や意見交換があった。

切通工事検査監は「高品質の調達が可能な入札から完成までの流れをどう実現するか」など、今後の公共調達の目指す方向性について説明。

その実現のためには受

施工管理基準のマニュアル化に取り組みたいと提案した。

同課の出前講座はこれまでで6回開催。299社、延べ337人

家(ひきや)工事・解体
土木一式工事・建築一式

 株式会社 

事業許可(特-17)第4087号
青森市宇宿町1955-1 ☎(099)275-
FAX(099)275-

る環境づくりが急務だとし、19年度は双方の生の声を反映させたワークシ
 ョップ設置検討を示唆。双方の技術力向上や電子化による事務のスピード
 アップ、書

工事
工事
成
600(代)
601番